

「マニラ首都圏都市貧困層における 結核対策プロジェクト」視察

結核予防会国際部フィリピンプロジェクト

現地プロジェクトマネージャー 鈴木 真帆

いよいよ動き出したフィリピンプロジェクト

フィリピンでは死亡原因の第6位が結核で、依然として多くの国民が結核により命を落としています。結核予防会は1992年よりJICA技術協力のもと、フィリピン国結核対策向上プロジェクトを行ってきました。このプロジェクトは2007年8月末を以て終了しましたが、今年1月に現地NGO法人「RIT/JATA Philippines, INC. (以下:RJPI)」を立ち上げ、引き続きフィリピン国内における結核対策に取り組んでいくことになりました。更に5月8日には在フィリピン国大使館と結核予防会の間で外務省NGO無償資金協力贈与契約の署名式が行われ、いよいよ本格的にRJPIの活動がスタートしました。このプロジェクトでは、現地NGOや住民組織、それに関連する公的・私的医療機関との協力体制のもと、「マニラ首都圏都市貧困地域」を対象に結核対策を実施していくというものです。このプロジェクトの対象地区は、東洋一のスラムと言われる「トンド地区」と、フィリピン最大のゴミ廃棄場がある「パヤタス地区」で、劣悪な生活環境から他の地域と比べて結核罹患率が高く、治療率が低いのが特徴です。

ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟事務局 局長浜田昌良参議院議員の現地視察

日本NGO無償資金協力供与にあたり、供与獲得にご尽力下さったストップ結核パートナーシップ推進議員連盟事務局局長浜田昌良参議院議員（結核予防会本部より金子洋専務理事と山下武子事業部長、日本リザルツ三沢さんが同行）2008年6月13日～15日の日程で事業地視察のため来比されました。



結核患者さんに質問する浜田昌良参議院議員

過密スケジュールの中、プロジェクトサイトであるパヤタス・トンド両地区を訪問され、DOTSクリニックの訪問、結核患者さんへのインタビュー、喀痰検査室の見学、また、強い日差しが照りつける足場の悪いコミュニティの中を歩き、結核患者さんの自宅を訪問しました。そこでは患者さんの

住環境がどれだけ結核が蔓延しやすい状況にあるかなどを実際に視察されました。

浜田先生は、RJPI現地理事Dr Lagahid（フィリピン保健省感染症課部長）とDr Voniatis（WHO Stop TB for the Philippines Medical Officer）、熱帯病財団総裁のDr Tupasiとも面談し、今後、結核予防会と現地の関係者の協力で設立されたRJPIが将来的に世界基金による結核対策を実施していくための具体的な話し合いがされました。熱帯病財団は2003年より世界基金の供与によるフィリピン国内の結核対策、特に多剤耐性結核に力を入れた事業を開始しています。



浜田先生（中央左）と熱帯病財団総裁Tupasi先生（中央右）

RJPIが近い将来に世界基金からの供与を受け、フィリピン国内で結核対策を実施するためには、JICAプロジェクトで培ってきた人的財産や他団体との繋がり、現在の外務省資金供与による結核対策従事者の人材育成が基盤となっていきます。ご多忙な折、浜田先生が来比して下さったことにより、RJPIは今後の方向性を見据えたプロジェクト運営の必要性や、このプロジェクトの意義を改めて認識することが出来ました。また、現地スタッフにとってもこのプロジェクトがフィリピン国民にとってどれだけ重要な意味を持っているかを理解する良い機会となりました。皆様のご訪問に心から感謝致します。



今回の視察団とRJPIのスタッフ（筆者は前列右端）